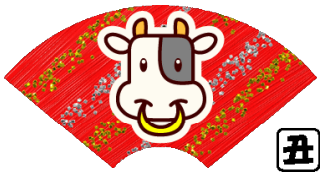
佐野市立界小学校　校長室だより第10号

令和3年1月7日

界　の　子



新年明けましておめでとうございます。

今年は、丑年。「丑」には、「我慢」や「発展の前触れ」を表す年になると言われています。新型コロナウイルスの蔓延でまだまだ耐え忍ぶ年になるかも知れませんが、地道に突き進む新たな発展へとつながる年にしていきたいものです。

学校では、新年を迎え、児童一人一人が心新たに目標を立てました。それぞれの目標が達成できるように、教職員一丸となって適切な指導に努めていきたいと思います。令和3年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【ご協力ありがとうございました～学校評価アンケート～】

学校評価アンケートでは、お忙しい中ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。皆様からお寄せいただきました評価、ご意見を今後さらに検討し、教育活動に生かしていけるよう努力していきます。結果につきましては、校長室だより号外にて報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

努力できることが才能である

新しい年を迎えて子どもたちは「新年のちかい」を立てました。心新たに、「今年は〇〇を頑張ろう！」「今年こそ、〇〇を絶対に達成してみせる。」と思い思いの目標が決まりました。その目標を実現するためのコツを教えてくれる言葉を紹介します。

元プロ野球選手で、読売巨人軍の４番で活躍した後、アメリカ大リーグのニューヨーク･ヤンキースでも活躍した松井秀喜選手の言葉です。

「努力できることが才能である」

野球が好きだった松井選手が３年生のとき、父親が半紙に書いてくれた言葉だったそうです。人よりも進歩が遅く、努力しないと人並みになれないタイプだと理解した父親が、一流になるために何が大切なのかを教えたかったと言っています。

「今年の目標、今月の目標、今日の目標」

夢に向かって進むためには、大きな目標だけでは足りません。まず、身近な目標を定めて取り組むことが大切です。それは、数字でなくて具体的な行動にして取り組んでみましょう。

松井選手は、高校時代、１年生では「石川県ナンバーワンのホームランバッター」に、２年生で「北信越ナンバーワンのホームランバッター」に、３年生で「全国ナンバーワンのホームランバッター」にと監督から言われ、毎日素振りを欠かさず、夢を実現したそうです。

努力することから逃げないことが、「未来」の自分をつくる力だと思います。

今年の目標に向かって、そして将来の夢に向かって、身近な「一歩」から実現を開始していきましょう。